

# 「きばっど」

# 南薩の社会教育

青少年教育の充実



家庭の教育力の向上



人権教育の充実



文化財の保存・活用



地域の教育力の向上



令和5年3月発行

南薩地区社会教育振興会



**1 P T A 関係**

【令和4年度「楽しい子育て全国キャンペーン（三行詩）」】

〔小学生の部 佳作〕

- ・下窪 咲太郎（南九州市立粟ヶ窪小学校3年）
- ・鮫島 咲助（枕崎市立立神小学校3年）

〔一般の部 佳作〕

- ・下園 伸秀（枕崎市立枕崎中学校）

【県PTA連合会表彰】

- ・南さつま市PTA連絡協議会

【全国高等学校PTA連合会会長表彰】

【日本PTA全国協議会会長表彰】

【九州ブロックPTA協議会表彰】

- ・山本 敏勝（個人：指宿市）

**2 公民館関係**

【第75回優良公民館表彰】

- ・指宿市立山川校区公民館

【県公民館連絡協議会公民館職員表彰】

- ・井上 敏弘（指宿市立中央公民館主事）
- ・下野 二雄（南さつま市阿多地区公民館館長）
- ・松坂 律子（南さつま市川畑地区公民館主事）

**3 社会教育振興会関係**

【地区社会教育振興会表彰】

- ・山崎 己代治（個人：枕崎市）
- ・開開小学校区学校応援団協議会（団体：指宿市）
- ・永池 直文（個人：南さつま市）
- ・東シナ海遠泳大会育成会（団体：南さつま市）

**4 子ども会関係**

【全国子ども会連合会表彰】

- ・両添子ども会（南九州市）

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・南さつま市子ども会育成連絡協議会（団体）
- ・松崎 瑞喜（個人：南九州市）
- ・松原単位子ども会育成会（団体：南九州市）

【県優良少年少女団体及び地域高校生クラブ等表彰】

- ・金峰支部子ども会（南さつま市）
- ・南九州市高校生クラブ

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・下山子ども会（団体：枕崎市）
- ・尾掛子ども会（団体：指宿市）
- ・愛宕上子ども会（団体：南さつま市）
- ・永田 正人（個人：南さつま市）
- ・大木 哲也（個人：南さつま市）
- ・新町子ども会（団体：南九州市）
- ・平木場 幸（個人：南九州市）

**5 読書活動関係**

【子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰】

- ・県立枕崎高等学校（枕崎市）

【子どもの読書活動推進優良図書館等鹿児島県教育委員会表彰】

〔子どもの読書活動推進優良校〕

- ・県立額娃高等学校（南九州市）

【第73回南日本文化賞「社会」部門】

- ・NPO法人 本と人をつなぐ「そらまめの会」（指宿市）

【「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」表彰】

〔ポスター原画コンクール〕

- ・入 選 高吉 真彩（南さつま市立阿多小学校6年）

**6 文化財関係**

【鹿児島県文化財功労者表彰】

- ・竹田神社からくり保存会（南さつま市）

**7 人権教育関係**

【人権に関するポスターコンクール】

〔部門別 最優秀賞〕

- ・仮屋崎 孝輝（指宿市立山川小学校2年）

〔学校賞〕

- ・指宿市立山川小学校

〔優秀賞〕

- ・打越 陽之介（指宿市立山川小学校2年）
- ・浜田 歩希（指宿市立柳田小学校1年）

〔入 選〕

- ・湯之上 雄星（指宿市立山川小学校2年）
- ・南 優葵（指宿市立山川小学校2年）
- ・有村 陽菜乃（南さつま市立万世小学校2年）
- ・出島 愛理（指宿市立山川小学校2年）
- ・森川 陽菜（指宿市立池田小学校2年）

**8 少年の主張鹿児島県大会**

- ・優良賞 鮫島 杏佳（枕崎市立枕崎中学校2年）
- ・優良賞 樋高 琉華（南さつま市立加世田中学校3年）

**9 地域が育む「かごしまの教育」県民週間**

【ポスター原画】

- ・優秀賞 北野 芽（南九州市立九玉小学校4年）
- ・優秀賞 菊永 琴子（南九州市立知覧中学校3年）
- ・特 選 今給黎 旬（枕崎市立桜山小学校2年）
- ・入 選 森川 陽菜（指宿市立池田小学校2年）
- ・入 選 大坪 千春（南九州市立大丸小学校4年）
- ・入 選 倉澤 礼穂（南さつま市立内山田小学校5年）

【標語】

- ・特 選 末永 里桜（枕崎市立桜山小学校5年）
- ・入 選 小吹 珀翔（南九州市立松山小学校1年）
- ・入 選 安田 乃唯（南九州市立清水小学校4年）

**10 「家庭の日」絵画・ポスター・標語**

【絵画の部】

- ・優良賞 上釜 剛（枕崎市立立神小学校1年）
- ・優良賞 桐木平 希（南九州市立大丸小学校5年）
- ・優良賞 山野井 大賀（南さつま市立内山田小学校6年）
- ・努力賞 小湊 春杏（枕崎市立立神小学校1年）
- ・努力賞 伊瀬知 親太郎（県立指宿養護学校2年）
- ・努力賞 細山田 行真（指宿市立開開小学校5年）
- ・努力賞 立石 琴乃（枕崎市立立神中学校1年）
- ・努力賞 山神 凜音（枕崎市立桜山中学校3年）

【ポスターの部】

- ・努力賞 小川 悠綸（指宿市立開開小学校6年）

【標語の部】

- ・優秀賞 阿久根 樹依（枕崎市立枕崎小学校5年）
- ・優秀賞 地藏 龍紀（南さつま市立万世中学校3年）
- ・優良賞 衛藤 莉子（南九州市立松山小学校2年）
- ・優良賞 菊永 梨笑（南九州市立宮脇小学校5年）
- ・努力賞 深田 紗奈（南九州市立松山小学校4年）
- ・努力賞 内菌 優心（県立指宿養護学校4年）

## 家庭の教育力の向上

### 【地区PTA役員研修会】

令和4年6月29日（水）・枕崎市市民会館

#### 南薩地区PTA役員研修会



〈会長挨拶〉

昨年度まで各单位PTA役員を対象に実施していた研修会を、今年度はコロナ禍ということもあり、地区PTA連絡協議会役員・代議員・母親委員、各市教育委員会社会教育担当者と、参加者を絞って開催しました。

地区PTA連絡協議会花立丈佳会長挨拶の後、研修Ⅰは南薩教育事務所山之上進一指導主事による「南薩地区PTA連絡協議会の努力点」「県・地区のPTA活動の現状」についての指導でした。



〈講演：橋口氏〉

研修Ⅱは、「PTAの今日的課題とPTA活動のあり方」と題して、南薩少年自然の家橋口盛文次長の講演でした。具体的な事例を交えた講演はとても分かりやすく、多くのことを学ぶことができました。「PTAの果たす役割は、家庭と学校と社会とが、その教育の責任を分けあい、力を合わせて子供たちの幸せのために努力していくことである。そのためには、PTA活動や行事に参加することが大切である。」というお話は、「PTAは誰のためにあるのか。」という原点に立ち返ってPTAを考える機会になりました。子供の減少や考え方の多様化など、PTA活動にとって様々な課題が山積しています。しかし、コロナ禍で思うような活動ができない今こそ、PTAを変えるチャンスと捉え、ニーズに応えられるPTAづくりを進めなければならないとの思いを強くした講演でした。



〈協議・意見交換〉

研修Ⅲは、会長から協議事項として出された、「PTAについての説明の有無」、「PTA役員の性別について」、「個人情報について」の3点について、4つのグループに分かれて協議・意見交換を行いました。校種や学校規模など環境は異なりますが、共通点や相違点を共有することができました。そして、現在のPTA組織や活動に対する一人一人の課題意識をもとに、PTAの今後の在り方について活発な協議や意見交換が行われました。

### 【地区社会教育担当者研修会】

令和4年7月12日（火）・南さつま市民会館

貧困問題、核家族化、さらにコロナ禍と、厳しい子育てを強いられている家庭も少なくありません。そのような家庭に対する社会教育行政としての支援や地域との連携の在り方について、講話・グループ協議を通して資質の向上に努めました。

研修の最初に、県教育庁社会教育課社会教育係慶田弦主任社会教育主事兼係長に「鹿児島県の家庭教育支援施策について」と題して講話をしていただきました。「家庭教育の基本的な考え方」、「社会全体で家庭を支え合う『社会（地域）は家庭の応援団』という考え方に立った家庭と地域や学校をつなぐ様々な施策と進め方」など、具体的な例を通して教えていただきました。そして、「家庭教育は未来を支える子供たちへの大切な贈り物」という考えを基に、保護者だけでは解決できない社会問題もある中、社会（地域）全体で子育てや家庭教育を応援することが重要であると指摘されました。個々の家庭の教育力向上とは直接結びつかないようにも思われますが、安心して子育てや家庭教育に取り組める環境（PTA活動や地域行事への参加、悩み相談など）をつくるために社会（地域）全体が支援することは、自ずと家庭の教育力向上に繋がるのだということを改めて認識することができました。



〈講話：慶田氏〉

グループ協議では、各市の取組の情報交換や意見交換が活発に行われました。特に、地域学校協働活動については、様々な意見が出され、今後の社会教育行政に繋がるグループ協議になりました。



〈研修会の様子〉



〈グループ協議〉

## 人権教育の充実

### 【南薩地区PTA会員等教育講演会 兼 人権教育ブロック別指導者研修会】

令和4年10月18日（火）・南さつま市いにしえホール

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催でしたが、今年度は各学校1人ずつと規模を縮小するなど感染症対策をとって開催しました。なお、今回は会員一人一人の人権意識の高揚と資質の向上を図るために、「人権教育ブロック別指導者研修会」を兼ねての開催でした。

開会の挨拶では、南薩地区PTA連絡協議会花立丈佳会長から「PTAや子供たちを取り巻く環境には様々な課題があります。だからこそ、私たちは学び続ける必要があります。今日の講演会で学んだことをぜひ学校に持ち帰ってください。」とありました。

講演は、「スマホ時代の子どもとインターネットをめぐる問題」と題して、県教育庁高校教育課学校教育ICT推進班白土師直弘指導主事にしていただきました。現代社会に不可欠なインターネットですが、いじめや誹謗中傷といった人権に係わる様々な問題も発生しています。このような社会に生きる私たちが考えなければならない、「子供と親（大人）のインターネット（スマホ）に対する感覚のずれの存在」、「親子が相談しやすい環境（コミュニケーション）を醸成することの大切さ」、「禁止ではなく善く使う方策」など、講演を通して多くのことを学ぶことができました。そして、「インターネットを語る時『情報モラル』を話題にするけれども、『日常のモラル』の積み重ねの上に『情報モラル』がある。」という御指摘は、日頃の子供たちとの関わり方を問い直す機会にもなりました。



〈会長挨拶〉



〈講話：白土師氏〉



〈講演会の様子〉

## 青少年教育の充実

### 【南薩地区子ども会安全教育研修・創作大会、育成者・指導者研修会及び子ども会大会】

令和4年12月3日（土）・指宿市開聞総合体育館

地区内の子ども会会員や育成者・指導者等が一堂に会し、創作活動や安全教育に関する研修を通して、子ども会活動の活性化を図るために開催しました。

南薩地区子ども会下川床泉会長挨拶、各団体表彰の後、指宿市の瀧口子ども会・森松西子ども会の活動発表がありました。両子ども会の発表は、日頃の活動についてプレゼン資料を使った堂々としたものでした。そして、発表であった地域の特色を生かした活動には、子ども会の活性化を図るための参考となる活動がたくさんありました。

活動発表の後、子供たちは安全教育研修・創作活動を行いました。コロナ禍で活動に制約はありましたが、ジュニア・リーダーを中心にいきいきと活動に取り組んでいました。

育成者・指導者研修会は、県教育庁社会教育課生涯学習係小菌正臣社会教育主事による講演でした。「だれのため、なんのため、子ども会」という演題での講演は、子供の減少など様々な課題もある中で子ども会活動を、原点に立ち返って考える素晴らしい機会になりました。



〈会長挨拶〉



〈活動発表〉



〈創作活動〉



〈リズムミックイングリッシュ〉



〈講演：小菌氏〉

## 地域の教育力の向上

### 【地区自治公民館経営研究会】

令和4年9月27日（火）・指宿市民会館

「地域社会に開かれた公民館活動をめざして」をテーマに、2年ぶりに開催しました。南薩地区社会教育振興会吉松幸夫会長の挨拶に続き、「南薩地域の文化財探訪」と題して、「オフィスいろは」代表下豊留佳奈氏に講演をしていただきました。文化財を活用した地域活性化の取組、そのためには地域の文化財を見直す必要があるという講演は、地域に残る文化財の価値を再認識することの大切さを学ぶ機会になりました。参加者からも、「文化財保護が地域の活力に結びつくことを発信しながら、地域の活性化に努めたい。」「公民館を学習の場として、地域の方々に生きがいをもってもらえるようお手伝いしたい。」などの感想が多く寄せられ、今後、地域の文化財が地域資源として活用され、公民館活動の活性化に繋がっていくことが期待されます。



〈研究会の様子〉



〈講演：下豊留氏〉



〈事例発表：森氏〉

講演に続き、「人口減少時代の自治会活動～知覧上郡自治会の合併～」と題し、南九州市知覧地区公民館館長の森重忠氏の事例発表がありました。少子・高齢化が進む中、日頃から公民館活動に苦勞されている参加者にとって、活動の参考となる内容でした。「少子化、過疎化が進む中で必ず話題になることなので参考にしたい。」「合併を進めるポイント、合併後の運営について、とても勉強になった。」といった感想からも、そのことが伺えます。また、「自治公民館の合併は、かなりの労力が必要だと思う。その意欲と先進性に感激した。」ともあり、今回の事例発表が時期を得た内容だったと言えます。

### 【地区社会教育委員研修会】

令和4年10月13日（木）・枕崎市民会館

「南薩の教育力を生かした学校と地域の連携・協働の在り方」をテーマに、各市社会教育委員、社会教育担当者が参加して開催しました。

南薩地区社会教育委員連絡協議会吉松幸夫会長、南薩教育事務所坂中裕二所長の開会の挨拶に続き、「南薩地域で伝えていきたい地域資源」と題して、NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事東川隆太郎氏に講演をしていただきました。

南薩地域の素晴らしい自然や文化などの地域資源、それらを様々な視点から再認識することの意義や子供たちへ繋いでいくことの大切さなど多くのことを学ぶことができました。ご自身の「まち歩き」を通じた具体的で分かりやすい内容は、参加者の心に響くものでした。「郷土を多角的な視点で見直し、再認識することができた。」「地域にある資源を活かすことの大切さ、そして生かすための視点を学んだ。」などの感想があり、各地域に残る地域資源が社会教育に生かされていくものと思います。

講演後のグループ別研究協議では、「地域素材や人材の活用をとおした学校・地域との連携」をテーマに、少人数で情報・意見交換を行いました。「所属や立場が違う方々から、様々な意見を聞くことができ有意義だった。」「学校と自治会の連携、相互理解の深め方、この関係がうまく構築できれば住民や家庭も協力しやすくなる。」などの感想があり、所期の目的を達成できました。

最後に、南薩教育事務所益満裕美指導課長に「まとめ」、枕崎市教育委員会木之下浩一教育長に閉会の挨拶をしていただきました。

最後に、南薩教育事務所益満裕美指導課長に「まとめ」、枕崎市教育委員会木之下浩一教育長に閉会の挨拶をしていただきました。



〈吉松会長〉



〈坂中所長〉



〈講演：東川氏〉



〈木之下教育長〉



〈益満課長〉



〈グループ別研究協議〉

## 地域文化の継承・発展，文化財の保存・活用

### 【地区文化財保護審議会委員等研修会】 令和4年5月25日（水）・南九州市ひまわり館

新型コロナウイルス感染症の影響により，令和2年度は中止，令和3年度は書面開催とこの2年間は対面での開催ができませんでした。しかし，今年度は半日開催など感染症対策を行って，各市の文化財保護審議会委員・文化財行政担当者，県文化財保護指導委員，県文化財課指定文化財係・埋蔵文化財係29人が参加して，文化財の保存・活用について研修会を開催しました。

研究・事例発表は，「川畑ミカンについての一考察」と題して，南さつま市教育委員会生涯学習課文化財係橋口亘主査にさせていただきました。地域の伝統作物「川畑ミカン」の起源や特徴について，様々な文献を詳細に調査し，まとめられたものでした。参加者からは，「伝統作物に視点を当てた発表で興味深かった。」，「文献等をよく調べての発表が参考になった。」などの感想が寄せられ，新たな視点の発表を聴くことができました。



〈研究・事例発表：橋口氏〉

研究協議では，「文化財の保護・活用の充実」について，現在の取組や課題について意見交換を行いました。「委員の方々と情報を共有できてよかった。」，「具体的な文化財を中心に協議したい。」，「天然記念物の保護と観光の共存について協議したい。」などの意見があり，今後の研修会の在り方にとって有意義な研究協議でした。



〈研究協議〉



〈講話：指定文化財係〉

研修会の最後は，県文化財課による「令和4年度文化財保護行政重点施策」についての講話でした。具体的な内容を示しての講話は，非常に分かりやすく参考になりました。最後には，研究協議で出された質問にも答えていただくなど，充実した研修会になりました。

### 【南薩地区「指定文化財」巡回視察】

令和4年11月16日（水）・指宿市



〈田の神〉

管内の指定文化財の視察を通して，個々の課題を共同研究し，文化財の保存・活用に資することを目的に実施しました。新型コロナウイルス感染症対策のため，参加者を各市文化財行政担当者と南薩教育事務所所員に限定し，半日で実施しました。

今年度は，指宿市教育委員会が管理する，「今和泉島津家墓所（国指定史跡）」，「宮ヶ浜商家群の3件（国登録有形文化財）」，「宮ヶ浜港防波堤（国登録有形文化財）」，「知林ヶ島のトンボロ（県指定天然記念物）」の4指定文化財について指宿市教育委員会歴史文化課西牟田瑛子主査の説明を受けながら視察しました。徒歩での移動中には，「田の神」を確認することもできました。

「今和泉島津家墓所」の墓石の形状や使用されている石材，「宮ヶ浜商家群」の家屋の価値や所有者の理解による保存，「宮ヶ浜防波堤」の建設の経緯や構造，「知林ヶ島のトンボロ」の自然が作り出す不思議な現象などの説明を現地で聞くことで，指定文化財の価値や保存・活用の状況，その必要性を改めて認識することができました。そして，実際に文化財に触れることの大切さを共有する機会にもなりました。



〈今和泉島津家墓所〉



〈知林ヶ島のトンボロ〉



〈宮ヶ浜港防波堤〉



〈西牟田氏〉



〈丸十金物百貨店店舗〉



### かつお釣り体験アドベンチャー

わたしたちの住む枕崎市は、昔から水産業とともに発展してきた街です。中でも、かつお漁は国内で屈指の水揚げ量を誇っており、「かつおのまち枕崎」を象徴する漁業としても有名です。

この企画は、枕崎市内の中学生に市の基幹産業であるかつおを中心とする水産業について理解してもらうとともに、実際のかつお釣りを自ら体験することを通して、仲間と協力することの大切さについても感じ取ってもらうことを大きなねらいとしており、今年度で31回目となる本市生涯学習課を代表する行事となっています。

本研修では、口永良部島や三島村黒島近海でかつお釣り体験を実施し、暑さと船酔いにも負けず、参加した中学生10人全員が最後まで一生懸命活動に取り組みました。その結果、かつお・しび・ほしがつお・さわら・つむぶりなどの5種類の魚を計12匹釣り上げ、研修に参加した全員が満足した顔で研修を終えることができました。



〈第1回事前研修会〉



〈第2回事前研修会〉



〈本研修（かつお釣り）〉



〈本研修（帰港後の記念写真）〉

令和4年度の本事業の流れは、以下のとおりとなっています。

第1回事前研修会 7月15日（金）→第2回事前研修会 7月22日（金）→本研修 7月26日（火）

※ 事後研修としてかつお料理作りも計画されていましたが、新型コロナウイルス第7波の感染状況から、こちらの活動については残念ながら中止としました。【8月18日（木）の事後研修は中止】

### 令和4年度枕崎市・稚内市青少年交流派遣事業

枕崎市と北海道稚内市が平成24年に友好都市盟約を締結してから、本年度で10周年となります。それを記念し、今年度稚内市に本市の中学生と高校生を派遣する令和4年度枕崎市・稚内市青少年交流派遣事業を実施しました。

本事業には、中学生9人・高校生5人の計14人が参加し、稚内市民や稚内の高校生との交流を深めることができました。

3泊4日の研修では、樺太犬慰霊祭への参列・昆布干し体験・本場の南中ソーラン体験・稚内市内の高校（稚内高校と稚内大谷高校）への訪問と交流・カーリング体験など、枕崎ではできない貴重な体験をすることができました。本事業の中で見聞・体験したことについては、令和5年3月12日（日）に計画されている「令和4年度枕崎市生涯学習フェスティバル」で報告をする予定となっています。

令和4年度の本事業の流れは、以下のとおりとなっています。

第1回事前研修会 6月28日（火）→第2回事前研修会 7月28日（木）

本研修 8月5日（金）～8月8日（月）3泊4日（稚内市内）

事後研修会 8月25日（木）→生涯学習フェスティバル 3月12日（日）（活動報告会）



〈第1回事前研修会〉



〈第2回事前研修会〉



〈本研修（昆布干し体験）〉



〈本研修（稚内での交流）〉



## 指宿市の取組

### 「令和4年度企画展『指宿が誇る芸術家 木佐貫 熙 展』の開催

指宿市考古博物館では令和4年度の企画展（以下、本展という。）として「指宿が誇る芸術家 木佐貫 熙 展」を令和4年10月1日（土）から令和5年3月12日（日）まで開催しました。本展では、指宿市の芸術文化の発展に貢献してきた木佐貫熙氏に着目し、氏の作品や制作時の道具などを展示・解説しました。

木佐貫氏は、指宿を代表する芸術家で、小・中学校の美術教員を勤めながら、「第八代濱崎太平次像」（太平次公園）や「湯浴みの像」（JR指宿駅前）など数々の作品を制作しています。

木佐貫氏が美術の世界に本格的に入っていったのは、鹿児島県立甲南高等学校の美術部に入部してからになります。ただ、当時は彫刻ではなく、絵画を中心に制作していました。1980（昭和55）年、44歳の時に、鹿児島県育英財団の推薦を得て東京学芸大学へ国内留学し、同大学名誉教授の橋本次郎氏に師事し、本格的に彫刻作品の奥行きを生み出し方などを学び、技法を習得します。同年に開催された日本最大の美術展覧会である第12回日本美術展覧会（通称「日展」という。）に初入選を果たしたのを皮切りに、南日本美術展昇議会議長賞など数々の賞を受賞します。

また、木佐貫氏は、1996（平成8）年に教員を定年退職した後も、自身が立ち上げた「いぶすきシルバー美術展」の実行委員会会長や、指宿市文化協会長を務めるなど、指宿市の芸術文化を語る上では欠かせない人物となっています。

今回の企画展で木佐貫氏による展示解説に参加された方は、「素晴らしい展示作品を通してその半生を知り、すごい人なんだと改めて驚いた」と話されており、指宿が誇る芸術家の素晴らしさを知っていただくことができました。今後も木佐貫氏の業績についてあらゆる世代の人々が学んでいただくことで、その芸術文化に対する真摯な姿に共感し芸術文化を愛する人々が少しでも増えてもらえたらと思います。



### 家庭教育支援の充実を目指して

#### 【子育てひろば】

子育てひろばは、子育て世代の方々が気軽に集まり、子育ての楽しさや悩みを共有し、市主催の養成講座を受講した「子育てサポーター」を交えて、交流を図ったり、学びを得ることができる場となることを目的として、ふれあいプラザなのはな館交流室で開催しています。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年3月から中止していましたが、毎月第1・3木曜日の開催に変更し、令和4年9月から再開しました。



〈子育てひろばの様子〉

#### 【家庭教育講座等支援事業】

指宿市内に住所を有する学校、保育所等未就学児向け施設、子育てに関心のある企業や団体等を対象に、家庭教育に係る学びの場を設ける際に、講師招致に要する謝金等を市が負担する事業です。各団体1年度内に原則2回までの利用としていますが、3回目の利用の相談もあり、好評を得ています。

#### 【指宿市子育てインフォ】

Instagramで「指宿市子育てインフォ」を開設しました。

社会教育課の取組だけでなく、健幸・協働のまちづくり課の「子育てママ・パパの運動教室」や歴史文化課のイベント情報など、子育てに関するイベントやお知らせ情報を一元化し、発信しています。







## 南さつま市の取組

### 令和4年度 南さつま市 第17回加世田地域文化祭

令和4年11月3日(木)に南さつま市総合福祉センターいにしへホールをメイン会場として、令和4年度 南さつま市 第17回加世田地域文化祭が開催されました。

芸能発表が催されたいにしへホールでは、日本舞踊やダンス、吹奏楽や合唱等、各団体がこれまでに練習してきた成果を十分に発揮されていました。

また、南さつま市民会館での展示部門(11月1日～3日の3日間)では、市民大学講座や学校、団体から出品された絵画、書道、陶芸などが並べられたり、油絵の体験コーナーを設置したりと来場者の目や心を楽しませていました。

さらに、南さつま市役所の市民広場を利用した「しやくしょマルシェ」、福祉センターと市民会館の間の道路を活用した軽トラ市、南さつま市立図書館では古本市や青空おはなし会なども行われ、3年ぶりに開催された加世田地域文化祭をより一層盛り上げてくれました。

舞台発表や展示発表等が行われたこの日は、感性あふれる作品や発表が、本市の芸術の秋を彩っていました。



〈芸能発表〉



〈展示発表〉



〈軽トラ市〉

### 令和5年 二十歳のつどい

2018年(平成30年)6月に、民法の定める成年年齢を18歳に引き下げることを内容とする「民法の一部を改正する法律」が成立し、2022年(令和4年)4月1日から施行されることとなりました。

このことから、令和4年度以降の成人式の在り方について検討するため、令和5年に成年となる中学校3年生及び義務教育学校9年生、高校1・2年生の生徒及びその保護者を対象にアンケートを令和2年3月に行ったところ、約8割の生徒・保護者の方から対象年齢は20歳のままだがよいという御意見をいただきました。この結果を受け、南さつま市ではこれまで同様20歳を対象とした式典を実施することとなりました。

今年も各中学校から集まった、有志の14人からなる運営委員とともに企画・運営を行いました。

式典は、「金峰権現太鼓」による太鼓演奏にはじまり、運営委員による楽しい進行のもと、恩師からのメッセージムービー等多くの見どころが詰まったものとなりました。

今後もみんなが楽しめることができ、かつ自覚をもつことができるような二十歳のつどいにしていきたいと考えています。



〈金峰権現太鼓による演奏〉



〈恩師からのメッセージ紹介〉



〈二十歳を迎えた方々の記念撮影〉



### 「夢ひろがる」による読書活動の推進

南九州市では、令和2年度から「子どもの読書活動推進」を重点施策のひとつとして掲げ、市全体で取り組んでいます。

令和3年3月に、市校長会の協力を得て「校長先生のお勧め本」として、小冊子「夢ひろがる」を小・中学生向けに発行しました。これが功を奏し、図書室へ行く子どもたちが増え始め、市内20校全児童生徒の1か月当たりの平均読書冊数が増加している状況となっています。

この冊子をきっかけとして、南九州市では読書活動が活性化し、「子供の読書習慣の定着を図るためには、保護者を含めた家族全体（市民全体）での読書環境づくりが、大切ではないか」との意見が出され、「夢ひろがる」の続編として令和4年3月、高校生・一般（保護者・高齢者含む）向けに「続・夢ひろがる」を発行しました。これは、市内に2館1室ある市立図書館の職員、高校生及び利用者の協力を得ながら、それぞれが推薦する本を募集する形で作成しました。内容としては、「家族に関する本」や「仕事に関する本」など項分けした計73冊を掲載したものとなっています。小冊子を開けるとお勧め本の表紙絵、書名、著者、出版社、おすすめポイントがそれぞれに書かれており、どの本も興味を引くものばかりです。

市内幼・小・中・高等学校に配布を行い、中でも次期に高校生となる中学生へは、全員に配布しました。また、市内3つの図書館・室にも常備してあり、希望される方へ差し上げています。

今回紹介した2冊の読書推進冊子が、生涯にわたって図書館や本と関わるきっかけになればと考えています。今後も家庭・学校・地域がより一層連携しながら、市民全体の読書活動の積極的な推進に努めていきます。



〈「続・夢ひろがる」の表紙〉



〈本の紹介のページ〉

### 陸上自衛隊西部方面音楽隊クリスマスコンサート2022開催

令和4年12月10日（土）、陸上自衛隊西部方面音楽隊クリスマスコンサートを南九州市コミュニティセンター川辺文化会館で開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため2年間中止していましたが、感染対策を行い3年ぶりに開催することができました。

当日は、40人の音楽隊の方々による演奏やソプラノ歌手による独唱など第1部と第2部に分けて開催されました。

南九州市内外から多くの観客がつめかけて久しぶりのコンサートに酔いしれていました。

来年以降も是非、開催してほしいとの声が多数ありました。



枕崎市

むたくどう ありかわむたくぞう  
夢宅堂・有川夢宅像

夢宅堂は、鹿籠金山の発見者と言われる有川夢宅を祀っています。

鹿籠の郷土であった夢宅が、狩猟中に山で桜の花が咲いていた枝を折ろうとした際に、偶然金鉱脈を発見し、1683年（天和3年）4月に金山として開坑されました。その後、薩摩藩はこの鹿籠金山を藩の直轄地に編入し、その代替地として加世田郷中山地区を鹿籠郷の領地に繰り入れるという政策を行いました。

藩は、金山を運営するにあたり、金山手形所（奉行所）を現在の旧金山小学校跡地に、その隣りに御蔵と横目詰所を置きました。

金山としての最盛期は、江戸時代の宝永年間で、その頃の年間の産金量は15.6貫（約58.8kg）、働いていた人夫は300人余りであったといわれています。また、長崎から遊女が数10人も招かれ、まさに黄金の花が咲き誇るような盛況ぶりであったとも伝わっています。



〈夢宅堂〉



〈有川夢宅像〉

指宿市

いろえさつまかくがたびん

色絵薩摩角形瓶

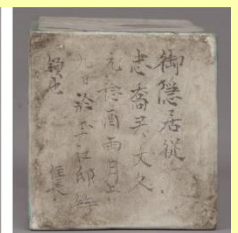
令和4年2月25日（市指定）

「色絵薩摩角形瓶」は、鹿児島藩が直接経営した「藩窯」の堅野窯の製品と考えられ、今和泉島津家に仕えていた秋山家で、「火薬入れ」として現在まで伝わっている焼き物です。

この焼き物の底部外面には、墨書が残っています。それを読むと、「御隠居忠喬君より文久元年（1861）西雨月上九日（旧暦五月九日）玉江邸において拝領なり 住長」とあり、今和泉島津家4代当主忠喬が、隠居後の文久元年（1861）に家臣へ下賜したことが分かります。

表面には、武勇の象徴である百足文が描かれています。百足は、戦国時代において、武神・軍神として崇拝されていた毘沙門天の使いとされ、武家の間では吉祥文（縁起の良い文様）としても採用されていました。これは、「色絵薩摩」と呼ばれる薩摩焼（県内で生産された陶磁器）の一種であり、「白薩摩」に上絵付けしたものです。保存状態が良いこの「色絵薩摩角形瓶」は、現在のところ類例品がみつかりません。

近世期の色絵薩摩の具体的な姿や今和泉島津家については、少しずつ明らかにされています。しかし、不明な点も多く、1861年以前の製作と考えられるこの焼き物は、今後の薩摩焼研究および今和泉島津家の歴史研究に貢献するものとして大変重要な歴史資料であるといえます。



御隠居 忠喬君 文久  
元稔 西雨月上  
九日 於玉江邸 拝  
領也 住長

## 南さつま市

# 名勝「坊津」

平成 13 年 1 月 29 日（国指定）

南さつま市の坊津は、九州の西南端という海上交通の要衝に位置する歴史的港町です。かつて、東シナ海を行き交う国内外の船が集まる要港として、筑前の博多津（現在の福岡県福岡市）や伊勢の安濃津（現在の三重県津市）と共に日本三津の一つに数えられました。

坊津のリアス海岸は、岬と湾が入り組んでおり、この複雑な地形が、変化に富んだ美しい景観を生み出しました。このため、坊津は古くから風光明媚な景勝地として多くの人々に親しまれ、詩歌に詠まれたり、絵画に描かれたりしてきました。坊津の網代浦にそびえ立つ双剣石（二本の剣の形をした奇岩）は、江戸時代の絵師として知られる歌川広重によって画題に用いられ、浮世絵に描かれています。

平成 13 年に、双剣石の周辺が国指定名勝「坊津」として国の文化財指定を受け、さらに平成 18 年には、双剣石に隣接する「鵜ノ島」地区が追加指定を受けました。



〈名勝「坊津」〉



〈双剣石〉



〈双剣石を描いた  
広重の浮世絵〉

## 南九州市

# 佐世保海軍通信隊颯娃分遣隊地下壕跡

令和 4 年 3 月 15 日（市指定）

佐世保海軍通信隊颯娃分遣隊地下壕は、太平洋戦争中に南九州市颯娃町上別府地区にあった青戸飛行場（通称「まのひ飛行場」）より南へ約 3 km の旧松原小学校校庭の一角に所在しています。入り口の鉄格子を抜け、幅 2 m、高さ 1.9 m、延長 12 m、傾斜勾配約 31% の馬蹄型のスロープを降りると広い空間があり、通信用の無線機などを設置したと推定されるコンクリートの台座が置かれています。その奥は左右に通路があり外に出られる構造で、左側通路の出口付近は土のうで塞がれています。左側通路へ入ってすぐ左手にある部屋の左壁に隣の部屋との連絡孔が 5 つあり、無線機器のコード等を通し使用されたと考えられます。天井部には丸と四角の大小 3 つの穴が外へ開いており、通風口として使われていたと推定されます。現在は敷地の一角の築山の下に隠れるような形で残っています。

当時のままの形で残っているため、戦時中のコンクリート建造技術を知ることができる貴重な戦跡遺構であることから、令和 4 年に南九州市指定文化財となりました。



〈地下壕入口〉



〈地下壕内部〉

※現在内部の公開はしていません。